



号

学

童

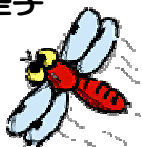
通

信



9月号もくじ

- ♪ マスタータイム突破者
- ♪ 7月8週目特別授業報告 外池 朋子
- ♪ 夏イベント水島海水浴ツアー報告 中塚 智子
- ♪ プレイスクール報告 外池 朋子
- ♪ 植出のオススメこの1冊 植出 由美子
- ♪ 子ども事情 知田 絵里子
- ♪ お知らせ
- ♪ むりえコーナー



学童教室 8週目特別授業報告



着衣水泳



学童スタッフ
外池 朋子



学童教室では、2ヶ月(8週)制で授業を展開しています。その最後の8週目を特別授業週と設定しています。特別授業とは季節に応じた遊びや通常のレッスンではできないような遊びをお友達やコーチと楽しんでもらい、仲間作りの応援やプールで遊ぶ楽しさを感じてもらいたいと考え実施しています。

今回は7月22日(木)~28日(水)に実施した『着衣水泳(流水体験)』の報告をしたいと思います。学童教室では7月を安全水泳月間として、7月1日(木)~7月7日(水)



の1週目に『安全水泳についての話』を子ども達に聞いてもらっています。今までは大プールでコーチによるクイズ形式の劇を見てもらっていましたが、今年は小プールが使用できる時間帯は小プールで実施しました。『溺れてしまった時はどうしたらいいのか』『身近な物や持ち物で浮く物はあるか(今回は水筒・ハンドタオル・スナック菓子(袋を開けていない物)・かばんの中で浮く物を確認してもらいました)』など、水難事故に遭遇した場合にあわてず、その場の状況を見極め、的確に判断できるように知識を習得してもらいたいと思っています。その時に習得した知識を実際に子ども達に体験してもらうことや着衣水泳の必要性を子ども達に理解してもらいたい為に水難事故が多くなるこの季節に『着衣水泳』を実施しています。

8週目特別授業当日はいつものようにトレーニングルームで出席確認の後、スケジュールを説明しながら子ども達に確認していることがあります。

- ① 服の下に水着を着ているか
- ② ズボンやスカートのポケットに何も入っていないか
- ③ 自分の着ている服を覚えてもらう
- ④ もし溺れてしまった時に、慌てず、パニックにならない為に練習するので、できない人は下向きでもいいですが、できるだけ上向きで浮く練習しよう
- ⑤ できるだけゴーグルなしでチャレンジしよう。(コンタクトレンズをしている人やアレルギーのある人はいいです)

以上の5項目です。①は着衣水泳が終わった後で服を脱いでもらうのですが、以前「あっ水着忘れた」という子がいたので今では必ず聞いています。②は流水体験をしてもらっている時に、アメやガムなどお菓子の袋や包み紙、ハンカチなども流れてくることがある為です。③は忘れ物防止の為です。④今回の目的を再確認する為です。⑤は以前に保護者の方から「ゴーグルをしていると泳げ



るのですが、ゴーグルなしだと泳げないと言っています。着衣水泳の時だけでもゴーグルなしで練習してもらいたいです」というご意見を頂きました。学校によっては、ゴーグルの使用はダメという所もあると聞いています。実際に⑤の項目を子ども達に伝えると「え～っ！無理～！」と言う子ども達も多いです。アレルギー等の場合は仕方ないと思いますが、できるだけチャレンジしてもらいたいということを伝えていきます。「無理やし、絶対使う！」と言う子もいますが、プールに移動するとほとんどの子ども達が流水体験の際はゴーグルなしでチャレンジしてくれています。

プールに流水装置を設置し、プールの中に赤い台を5段（土曜日10時の時間帯はプールサイドに3段）積み上げた所からジャンプしてもらいます。高い所が苦手なお友達や低級の子も達は低い場所からジャンプしてもらっています。1回目は何も持たずに上向きに浮いて流してもらいます。2回目はペットボトルを先にコーチ

がプールに投げ入れ、その後に子ども達がジャンプしてペットボトルを持ち、お腹に抱えて浮いてもらいます。身近にあるペットボトルで本当に浮けるのか、何も持たない時よりペットボトルを持って浮いた方が楽ということを実感してもらいます。3回目は浮き輪です。子ども達の中にはこの浮き輪が1番楽しみという子も多いです。浮き輪を持ってジャンプしてもらったり、浮き輪の中にジャンプした後は、プカプカ浮いてもらっています。上級の子も達は、通常の授業ではなかなかできない高い所からのジャンプや流れのあるプールで浮くことを体験してもらっています。低級の子も達はいつもより高い所からのジャンプにチャレンジしてくれています。水に対して不安のある子ども達も浮き輪をしているから大丈夫！と勇気を出してジャンプしてくれています。

流水体験後は、各クラスに分かれて着衣水泳をしてもらっています。各級毎に参考カリキュラムを作成しています。例えば15級の場合、『浮き輪を使って浮く』『浮き輪を使ってバタ足』『フロアー（赤い台）の上を歩く・走る』7級の場合、『ビニール袋を使って浮く』『ビニール袋を持ってキック』『クロール』2級の場合、『服を使って浮く』『背面キックで泳ぐ』『様々な泳ぎを試す』など『浮く』『移動』『その他』のテーマ別に様々な道具を使ってもらいます。服を着たまま水に入るとどんな感じなのか（水着との違い）、服を着ている方が浮きやすい場合もあること（服の種類によります）を実感してもらい、着衣をしている時の泳ぎにくさを体験してもらい、体力を消耗しないように上向きに浮くことの大切さを覚えてもらうことを目的に練習してもらっています。毎年体験してくれている子ども達は、安全水泳の話や着衣水泳のことを覚えてくれていて、「〇〇したらいいねん」「こんな時はこうする」とお友達に教えてくれたり、お友達に見本を見せてくれたり、知識として記憶してもらえていることを嬉しく思います。今年初めて体験してくれた子ども達は、来年また新しいお友達に教えてもらいたいと思います。

水島海水浴ツアー報告



学童スタッフ
中塚 智子



参加してくれたお友達

辻井ちかさん・辻井たいちくん・小橋まりかさん・藤井ゆいさん・南あかりさん・吉田はるなさん、
木下たいしくん・林せいたろうくん・林まゆこさん・林りょうすけくん・西田ゆうやくん・黒川みき
さん・竹内なぎさくん・三谷もとひろくん・肥田いちろうくん・肥田あかりさん・中沢りょうくん・
南りゅうじくん・伊室しゅんすけくん・前野みなさん

梅雨明け宣言してから毎日猛暑日の続く中、今年も「北陸のハワイ水島」へ行ってきました。滋賀県は雨もあたりたようですが、福井県は快晴で暑い1日となりました。ただし、風はとっても強かったです。初めて参加してくれたお友達、2回目以上でやる気十分のお友達がわくわくドキドキしながら、朝早くから続々と集合してくれました。早めの集合ありがとうございました。福井県の天気予報は、曇りときどき晴れ、最高気温は34℃と暑い1日の予想です。集合して名札をつけて、トイレに行ってバスの座席を決めて、さあ福井に向けて予定通りに8:15出発です。バスが先導して、よしとコーチは自家用車で着いて来てくれました。

バスに乗ったら、しっかりシートベルトを締めて、自己紹介の始まりです。お友達の名前、学校、今日のニックネームを決めてもらいました。一番前のみきさんとはるなさんは、ちょっと緊張気味です。子ども達は「ニックネームは、なんでもいい！」と下の名前が多かったです。そして、恒例のコーチのニックネーム決めです！！超若者から、おばちゃんおっちゃん(!?)のコーチ達ですが、今年のニックネームは(海でも必ずこの名前で・・・)、岡田監督・おかださ〜ん、寺尾のぼる・のぼちゃん、としこさん、谷山、なかっちです。だれがどの名前かは覚えているよね？

名前が決まったところで、早速、「おやつ食べていい？」とお菓子の袋がすでに開いています。それから、ゲーム“今日の運命は？風船で、はらはらドキドキ”の始まり〜。とっても簡単なゲームです。風船をふくらませてセロテープをいっぱい貼る。

これを順番にそ〜とはがす。それだけです。順番は、6年生のなぎさくんと1年生のちかさんでジャンケンして、6年生から始まりです。1個目、なぎさくん”パーン”と大きな音！！次のりゅうじくんも”パーン”となかなか難しいです。試しにのぼるコーチがやってみると大成功！！次にせいたろうくんとまりかさんが挑戦するもパーン！同じ5年生のいちろうくんは成功！でした。その後も次々とチャレンジするも難し



い！成功したお友達もいるけど、割れる確率が高かったです。学年がドンドン下がっていき、やだなあ〜と言いつつも、ドキドキしながらみんなチャレンジしてくれました。後半戦は、成功するよ

うに風船がドンドン小さくなりましたが・・・

ゲームの途中で賤が岳サービスエリアでトイレ休憩です。みんな降りて、からだを伸ばして外の空気を吸います。とっても暑いです。冷たいミストが上から出てきてとっても気持ちいいです。気分を変えて福井へ出発！高速道路は、すすい進みます。初めてのお友達同士も、少しずつうち解けてきたようなので、バスの中で写真をとっていきました。のぼるコーチの横でゆいさんが、みなちゃんは振り向きながら、ハイポーズ！！少し緊張気味のみなみあかりさん、まりかさんにもパシャ！！たいしくんはクールに写ってくれました！バスの一番後ろの男の子達は超ノリノリで写ってくれました！そうしているうちに海が見えてきました！



高速道路を降りたら、海を右に見ながらくねくね道を進んでいきます。水島に近づいてきたので、みんなに浮き輪を膨らませてもらいました。

「水島は、無人島でトイレしかありません。トイレに行く時は、コーチと一緒に行ってね！」

「名札の色で、チームで行動しようね」

船の着く場所やグループ分け、水分たくさん取ってね、荷物を置く場所の説明を聞きつつ、みんなの気持ちはすでに海の虜です。

到着したら、みんな猛ダッシュで水着に着替えます。そして、ジャケット、お弁当、水筒を用意したら準備万端です。しかし、風が強くて浮き輪が転がって大変です。

みんなの準備ができると徒歩で船着場まで出発！順番待ちで、建物の日陰でちょっと休憩。そして、いざ船に乗り水島に出発です！

水島に到着すると、まず島の真ん中まで移動です。しかし風が強くて歩くのも一苦労。なんとかタープを立てる場所まで移動できましたが、風でタープを立てるのも一苦労。現地のおじさん達が手伝ってくれました。なんとかタープを立てることができついにお待ちかねの海へ突撃です。

「つめたい！きもちいい！塩からい！」

「ちょっと、泳ぎに行っていない？」

「貝殻見つけた！！」

など子ども達の反応は様々でしたが、子ども達は自分なりの遊び方を見つけて海を堪能してくれていました。

ひと遊びをしたら、お昼ご飯です。「え～～、まだ遊ぶ！」という子もいましたが、午後の海遊びに向けてエネルギー補給です。現地のおじさんが、場所を提供してくれて、みんな木陰で、快適にごはんを食べました。お家の方、お弁当を作



ってくれてありがとうございます。デザートあり、ゼリーありと、見た目にもステキなお弁当がいっぱいです。

コーチとしては、もっとゆっくり食べてほしいのですが、子ども達は、早く海に行きたいのです。コーチも一緒に行くから待ってもらおうのが大変！！待っている時に、貝殻を見つけたりしていました。ゆうやくんは、みつけた貝殻をなんと靴いっぱい詰め込んでいました。ゆいさんもキレイな桜貝を見つけては、見せてくれました。

昼からは、楽しみにしていた海上の飛び込み台から飛んだり、ちょっと沖まで泳いだり、魚を追いかけたり、塩からさが苦手なお友達は、波打ち際で、生き物探しをしたり、砂山を作ったり、自分の海を大発見していました。ほとんどのお友達が、コーチと一緒に飛び込み台にチャレンジしていました。1年生のりょうすけくんは、「沖に行って飛び込んだ!!!」と、嬉しそうに言ってくれていたなら、まゆこおねえちゃんに、「コーチと一緒にね」と言われてしまいました。りゅうじくんは、自分の足ヒレで、海を満喫しています。たいちくんも、自分のシュノーケルで陸と平行にず〜っと海中探訪を楽しんでいました。



泳げるお友達は、ジャケットが浮いて泳ぎにくかったり、また、逆に浮けて楽しかったりと、楽しみ方は、さまざまです。「潜れないし、ジャケット脱いでいい？」というお友達には、「ここで、コーチと一緒にだからね。」脱いだら、潜れて気持ちよさそうです。ヤドカリ、ひとでや、小さい魚、ちょっと大きな魚を発見したり、カニもつかまえて見せてくれます。「カニを見つけてもジャケットが浮いて捕まえられない」と、まりかさん……。水の中は気持ちいいけど、陸に上がると、風が強くて「さむ〜い」と言うお友達は砂に埋もれてとっても暖かそうでした。りょうくんも海から上がってきて、「さむい」と言うのでジャケットを脱いでもらって、そのまま砂の中へ！「きもちいい〜〜」と言い、少しの間そのままでした。みきさんや、ちかさんは、波打ち際で砂のお城作りです。



浮き輪が、風で飛ばされてしまうので、コーチが空気を抜いていると、もとひろくんが手伝ってくれました。「海行かなくていいの？」と聞くと、「うん。これも楽しい」と言ってくれました。最後のほうは、コーチより手早くキレイにやってくれました。

「そろそろ帰るよ〜〜」と、声をかけても、なかなか沖からは帰ってこない子ども達でした。足に砂が、手に砂が、と理由をつけてはまた海に行ってしまうのでした。帰りは、重く感じるジャケ

ットや荷物を持って、船着場までテクテク。船の棧橋の下には小さな魚が泳いでいます。帰りの船も全員船室でしたが、波があるのに窓を開けて頭からびしょびしょのせいだろうくんとりょうくんに大笑いです。船を降りたら、足元の海の中には小さい魚の群れやちょっと大きな魚がいて触れそうで触れない状態で残念そうでした。

バスまで戻って、シャワーをいっぱいして、「つめた〜い！！」と言いつつ、また、遊んでいました。忘れ物のないようにして、バスは次の目的のお買い物へ出発です。トンネルが見えてきたら息止め競争が急に始まって、コーチは酸欠状態です。

賤が岳サービスエリアでお買い物です。自分のも買いたいし、おうちの人にも、おねえちゃん、おにいちゃんにも買わなくちゃ・・・悩みながら、お財布と相談しながら。「これで買える？」とお財布を見せてくれたり、みんな一生懸命です。ここで、かつあげを食べている男の子もいましたよね！りょうすけくんやひだあかりさんは、音の出るカメのぬいぐるみが、まゆこさんは、白いぬいぐるみがお気に入りだったようです。しゅんすけくんはお財布を見ながら、何をかうかすごく悩んでいましたが、無事にお買い物することができました。お買い物が終わったら、ウェル・ビに向けて出発！です。

バスの中は、しばし、おやつタイムが始まりました。そして帰りのバスのさいごのゲームは、恒例の大人対子どもの「しりとり大会」です。何人かは経験者なので、まずNGワードをきめてから始まりです。しかし、・・・子ども達が年々強くなってきていて答えるのが早い！後半戦はのぼるコーチが必死にがんばっていました。お互いに「す」返しにしたり、同じワード返しにしたりと、なかなか、がんばっています。子どもチームでは、なぎさくんが大健闘です。時間切れで、引き分けという結果になりました。・・・大人チーム、残念！！また、勝てなかったです。

あとは、ウェル・ビに何時何分に着くかです。岡田コーチに、ゆっくり行って～、もっと早く！などなどリクエストがいっぱいです。バスの時計で、正解は、「5時37分」でした。高速道路が、渋滞することもなく予定よりも早い帰着となりました。

みんな夏の楽しい思い出が増えたね！！また、来年も海を楽しみましょう！！



～イベント終えて～

今回は、2回目参加のお友達、兄弟参加のお友達、もちろん初めてのお友達と20名の子ども達、夏真っ盛りの水島を楽しんできました。今年は、暑い日が続いていて、くらげもほとんど見かけませんでした。アンケートの中からも、子ども達は、行く前からとても楽しみにしていたことが、ひしひし伝わってきてとても、嬉しく思いました。2回目のお友達は、着いたときから海にとびこんで、初めてのお友達は、海水のからさに、びっくりしたりと、次から、次へといろんな表情を見せてくれました。また、一人で参加して心配、不安があったかもしれないお友達もいたのですが、帰りのバスでは、行きよりもにぎやかにおやつ交換が行われ、「名前は忘れたけど、お友達になったよ」という声も聞こえてきました。

保護者の方には、暑い中、送迎、お弁当づくり、子ども達を送りだしていただき、ありがとうございました。子ども達からのいろんな報告を楽しく聞いておられる姿がみえるようです。これからも、安全を最優先にし、子ども達が楽しく、社会性や、協調性等の獲得をして頂き、また誰とでも楽しめるこころの育みを応援したいと思っておりますので今後ともご協力お願いします。

プレイスクール報告 No9



プレイスクール責任者
外池 朋子



甲賀市内の小・中学生の場合、プレイスクールへの参加は学校の出席と同様の扱いとされています。市外からの参加者の場合でも、校長先生の判断で出席と同様の扱いにしてもらえるようになっています。と言っても夏休み中も活動しているプレイスクールへの参加は出席日数としてカウントされません。毎月、適応指導教室を通して学校へ報告されているプレイスクールの出席報告も夏休みの出席は報告していません。それでも子ども達はプレイスクールに参加してくれています。

※ プレイスクールとは・・・
不登校の子ども達の居場所作りを目指して、平成9年スタート。毎週水曜日の12:30~13:30のプール活動、その後ミーティングなどをして楽しんでもらっています。

8月現在のプレイスクールは、1名は部活動を頑張りたいということで参加されていませんが、ほぼ毎週参加してくれている子1名と、以前からの参加者で学校復帰していますが、夏休みや学校が休みの時に参加したいということで申請書を提出されている1名が参加してくれているので、7月の『着衣水泳体験』や8月の『お菓子（ポテトチップス）作り』、プール活動を2名で楽しんでくれています。着衣水泳の時にはあまり交流は見られませんでした。その後会話をしたり、一緒に遊ぶ時もあったので、お菓子作りの時には役割分担なども自分達で決めて手際よくポテトチップスを作ってくれました。プール活動でも私と3人でバレーやオニごっこ、ボール遊びを一緒に楽しんでいます。週末なら参加できるということで、現在『秋のお泊まり会』を企画検討中です。夕食作りや夜のプール遊び、きもだめしなどを通して子ども達に交流を深めてもらいたいと思っています。

水は人々を優しくさせる

私が初めてプレイスクールの子供達と一緒にプールに入った時に一番驚いたことは、みんながとても優しくしたこと。学童教室でも同じですが、新しいクラスの担当になった時や、進級して新しいお友達がメンバーに加わった時などはコーチやクラスに慣れてもらいたいの、コーチの思いからの活動や行動が多くなります。プレイスクールに入る時も同じ心構えでいたのですが、私よりも早く子ども達の方から話してくれたり、誘ってくれたり…この優しさは『こういう時の気持ち分かるから』『自分もプレイスクールに初めて来た時にそうしてもらったから新しいお友達にしてあげたい』という感じなのかなと思っていました。確かにこのような気持ちもあったり子ども達自身の性格もあるとは思いますが、経験的に『水は人々を優しくさせる』のではないかと考えるようになりました。

例えば6年生の男の子の事例です。小柄なことを気にしていたのですが、そのことを他の人に指摘されたのです。言った人は悪気はありませんでした。でも普段から気にしている子は「なんで、そんなこと言うの！」と怒ってしまい、席を立ちその場を離れました。館内をウロウロしながらブツブツ文句を言っていました。この後どうするのかなと思っていたら1周したら元の場所に戻りましたが、まだ少し怒っている様子でした。初日にそんなことがあったので、継続参加してもらえな

いかと思っていましたが、次週からも元気に参加してくれました。3ヶ月たった頃、子ども達同士でまたその話題になりました。ドキドキしながら見ていたのですが、本人は笑いながら自分の気にしていることをお友達に話していました。プールは裸に近い環境があり、何にもまして解放感に満ちています。汚れや濡れの心配からの解放、まるで無重力のような浮游感、呼吸さえ間違えなければ相当に乱暴なことをしても平気です。まさに気ままいっぱい過ごせる場所の中では、それぞれが抱えるストレスを忘れさせるのではないかと思います。自分が解放されることで、相当他者を優しく受け入れることができるのです。仲良くなる為にお説教などは必要ではなく、水が受け入れることを教えてくれているように思います。存分に遊びあえる場所がプレイスクールなのです。

植出のオススメ♪この1冊



学童主任
植出 由美子



「感じない子ども ころを扱えない大人」 集英社新書 著者 巖 奈々

最近の子は何を考えているか解らない。親でさえも我が子への接し方が解らないといったことをよく耳にします。昔に比べて物質的には便利になった反面、心の問題だけはクローズアップされるばかりで、子どもも大人も「感情」を上手に扱えなくなっているように感じます。特に、『怒り』、『落ち込み』、『不安』といったネガティブな気持ちに対応出来ないことが、学級崩壊や少年たちの衝撃的な事件を生んだり、大人の社会でもさまざまな困ったコミュニケーションを引き起こしているようにも思えてなりません。また、喜怒哀楽の感情を表に出さないことが、無表情、無関心といった表現になるのかも知れませんが、近日、毎日のようにニュースに取り上げられている子ども達を巻き込んだ事件に関しても、「感情」や「共感する力」「イメージする力」を失ってしまい、周囲で起きていることと自分をブツリと切り離してしまっているように思えてなりません。かつては、気持ちを取り扱うための訓練が、兄弟ゲンカをしたり、家族との駆け引きをしたりしながら、自分の気持ちを自覚し、それを表現する方法を自分なりに見つけ、磨く機会が家族の中で自然になされていたように思います。また、小学校で知識を習得するまでに、自分の感情を十分に味わって自分なりのコントロール方法がある程度身につけておくことも大切ではないのではないかと思います。私自身も、親戚の集まりがあれば、ちょっと気になるおじさんに挨拶をするなど、ぎこちないながらも自分なりの人間関係を結ばざるをえない場面に遭遇することになり、事前にどんなふうに言えばいいのか、コミュニケーションの方法を予習させられることもあったように思います。このような、家族の中で自然に行われていた気持ちを取り扱うための訓練（子どもたちが感じたことを言葉で表現出来るように大人は早急に答えを求めることなく、待つこと、見守ること、助けを求められた時には直ぐに手を差し伸べる）を、これからは教育の場、家庭の中で意識的にこのトレーニングをしなくてはならないのではないのでしょうか。

この本は、そんな子どもたちの発する気持ちの SOS にどう答えるか、大人の感情トラブルをどう解決するかが解りやすく書かれています。

今、私たちに必要なことは、自分で自分の気持ちに気づき、その落ち着き場所を見つける力。自分と周囲の関係を感じ取る力。相手の気持ちを解ろうとする力をトレーニングすることがあげられるのではないのでしょうか。大人の私たちも、自分自身を時には自分をほめてごほうびを出すことで、きっと自分を認められることができるようになると、周りの人のことも認められるようになり、もちろん、自分の子どものことも認めて、素直にほめられるようになると思います。

最後に一番共感した言葉を書き添えておきたいと思います。

「相手の気持ちを知るため、自分の気持ちを理解しなくてはならない」「相手の気持ちというのは、自分の感情を手がかりにして理解するものである」からである。

学童教室は、子ども達のたくましい成長を願った自立応援プログラムを目指しています。

子ども事情

「横浜 女子高校生殺傷事件・兵庫県 中学3年生放火殺傷事件」に思うこと



教育指導チーフ
知田 絵里子



6月15日、横浜の清心女子高校にて隣の席の女子生徒を殺傷するという事件、7月9日、兵庫宝塚市で中学3年生の女子生徒が、放火にて両親を殺害するという事件が起こりました。横浜の事件の加害女子生徒の話では「隣の席の女の子がうるさい」、兵庫の事件の加害女子生徒2名の場合は「両親がうるさい」と常日頃からこぼしていたと報道されています。もちろん、真相についてはマスコミ報道だけではわかりかねますが、どちらの事件にも共通して言える事は、人間関係においてのわずらわしさを感じていたという事が感じられます。

社会の注目を集めるような少年犯罪が起こると“どうしてこんな悲しい事件がおこってしまうのだろう”といつも思います。学校での人間関係、家庭での家族関係、職場での関係等、本当に複雑になってきているのだと予想します。人は人との関わりなしでは生きてはいけないにも関わらず、周りとの人間関係を断ち切るかのように部屋に引きこもる人が増えてきているそうです。引きこもり状態にある若者は全国で69万6千人”と（内閣府調査 7月）発表されています。※“引きこもり”とは「精神疾患や病気以外の理由で部屋や家からほとんど出ない状態が半年以上続くこと」と定義されています。主な原因は、「職場に馴染めなかった」「就職活動が上手くいかなかった」「不登校」等との事ですが、コミュニケーション（人間関係）がうまくいかないと感じることは日々の生活を充実させるどころか、行動する気力すら減退させてしまうようです。

私の生活では、身の回りには片付けに困るほどの生活用品があふれ、無くては困る訳ではないのに買い物に出かけ、使わないままになっている物もある状態です。

子どもの頃からこんな生活が当たり前になってしまっているため“物質的に恵まれている”とは感じにくい生活です。こんな時代に育っている現代っ子において“夢や目標が持ちにくく、生きにくくなっている”とメディアでの主張がある事にも納得がいきます。目標がない生活は精神的にも不安定になりがちです。日々の生活に充実感をもちにくくなり、その事は将来に対しての不安感にも繋がってしまいます。それは大人だけでなく、子ども達にも言えることだと私は思います。

子ども達が夢や目標に向かってたくましく成長でき、そして毎日イキイキと楽しく過ごせる社会にしていくために、日々たくさん子ども達と関わっている私は、人との出会い（コミュニケーション）の大切さやおもしろさをプール活動を通じて伝えていきたいと思っています。

ウェル・ビの学童教室では、その取り組みの一つとして、自分の気持ちを考えたり、集団の中で自分の意見を言える機会を設けるような授業展開を目指しています。

その事は、子ども達が大人になっていく過程で、自分のやりたい事や自分の願いを叶えていく基礎作りに繋がると思うからです。まだまだ勉強不足な点がいっぱいですが、子ども達や保護者の方々にとって、ウェル・ビが楽しく、安心出来る場所となるよう学童教室のプログラムを充実させていきたいと思っています。よろしくお願い致します。ご意見、ご質問等ございましたら、お気軽にお声をおかけ下さい。お待ちしております。